

第六 其ノ他

○應徵士服務紀律

昭一八、八厚令三六
改正昭二〇、三軍需令一
文部

第一條 國民勤勞勳員令第二十八條第一項ノ規定ニ基キ被徵用者ノ服務ニ關スル命令ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第一條ノ二 被徵用者ハ之ヲ應徵士ト稱ス

第二條 應徵士ハ徵用ノ本義ニ則リ忠誠ヲ旨トシ左ノ紀律ヲ遵守スベシ

一 應徵士ハ職紀ヲ尙ビ責任ヲ重シ全能ヲ奮ヒ誠心職務ニ勉勵スベキ

二 應徵士ハ至誠上長ニ服從シ上下相信倚シ和衷協同互ニ敬愛スベキ

三 應徵士ハ率先挺身部下ノ模範トナリ其ノ信望ヲ一身ニ聚ムル如キ行

動ヲ爲スベキコト

四 應徵士ハ智識技能ノ鍊磨ニ努ムベキコト

五 應徵士ハ氣節ヲ尙ビ廉恥ヲ重シ苟モ應徵士タルノ名譽ヲ毀損スル

ガ如キ所爲アルベカラザルコト

六 應徵士ハ居常簡素ヲ旨トシ質實剛毅ノ氣風ヲ振起シ堅忍不拔ノ精神

ヲ涵養スベキコト

七 應徵士ハ保健衛生ニ留意シ體力ノ鍊成ニ努ムベキコト

八 應徵士ハ職場保安ニ留意シ災害豫防其ノ他ノ措置ニ萬全ヲ期スベキ

九 應徵士ハ機械、器具、材料、製品其ノ他ノ物資ヲ尊重シ苟モ粗略ノ

取扱アルベカラザルコト

第六 其ノ他

十 應徵士ハ自己ノ職務ニ關スルト否トヲ問ハズ知悉シタル機密ヲ保持

シ防諜上遺憾ナキヲ期スベキコト

第三條 事業主タル應徵士ハ生産遂行ノ全責任ヲ負荷セラレタルモノナル

ノ自覺ニ徹シ率先垂範前條ノ紀律ヲ遵守スルノ外常ニ士氣ノ鼓舞ニ努メ

明確ナル企圖ノ下ニ適時適切ナル指揮ヲ爲スト共ニ工場事業場總員一家

ノ肉親的團結ヲ圖リ以テ職力増強ノ責ヲ果スベシ

第四條 應徵士前二條ノ紀律ニ違背シ其ノ他應徵士タルノ本分ニ悖ル所爲

アリタルトキハ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第五條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 訓告

二 譴責

三 罷免

訓告及譴責ハ文書ヲ以テ之ヲ行ヒ罷免ハ徵用解除ニ依リ之ヲ行フ

第六條 罷免及事業主タル應徵士又ハ國民勤勞勳員令第二十八條第二項ノ

者若ハ團體ニ使用セラル應徵士ノ懲戒ハ厚生大臣、其ノ他ノ懲戒ハ當該

事業場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京都ニ在リテハ警視總監)之ヲ行

フ

厚生大臣懲戒(訓告ヲ除ク)ヲ行ヒタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第七條 應徵士ハ別表制式ニ依ル徽章ヲ左助ニ裝著スベシ

被徵用者ニ非ザレバ前項ノ規定ニ依ル徽章ヲ裝著スルコトヲ得ズ

第八條 官符ニ使用セラルル者ニ關シテハ主務大臣ニ於テ別段ノ定ヲ爲シ

タル場合ニ於テハ本令ノ全部又ハ一部ハ適用ナキモノトス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○國民義勇隊組織ニ關スル件

(昭和二〇、三、)
閣議決定

現下ノ事態ニ即シ本土防衛態勢ノ完備ヲ目標トシ當面喫緊ノ防衛及生産ノ一體的飛躍強化ニ資スルト共ニ狀態急迫セル場合ハ武器ヲ執ツテ躍起スルノ態勢ヘ移行セシメンカ爲左記ニ依リ全國民ヲ擧ケテ國民義勇隊ヲ組織セシメ其ノ挺身總出動ヲ強力ニ指導實施スルモノトス
尙之カ圓滑適正ナル實行ヲ期スル爲地方行政協議會長ヲシテ關係軍管區司令官及鎮守府司令長官、警備府司令長官等ト緊密ニ連繫シ夫々事態ノ推移ト管内ノ實情ニ即スル如ク措置セシムルモノトス

一、目的

- (一) 國民義勇隊ハ隊員各自ヲシテ旺盛ナル皇國護持ノ精神ノ下其ノ職任ヲ完遂セシメツツ職局ノ要請ニ應ジ左ノ如キ業務ニ對シ活潑ニ出動スルモノトス
 - (二) 防空及防衛、空襲被害ノ復舊、都市及工場ノ疎開重要物資ノ輸送、食糧貯産(林業ヲ含ム)等ニ關スル工事又ハ作業ニシテ臨時緊急ヲ要スルモノ
 - (三) 陣地構築、兵器彈藥糧秣ノ補給輸送等陸海軍部隊ノ作戰行動ニ對スル補助
 - (四) 防空、水火消防其ノ他ノ警防活動ニ對スル補助
- 尙狀態急迫セル場合ニ應スル武装除隊組織及其ノ出動ニ關シテハ特別ノ措置ヲ講スルモノトス

二、組織

- (一) 國民義勇隊ハ官公署、會社、工場事業場等相當多數ノ人員ヲ擁スルモノニ付テハ當該職域毎ニ其ノ他ノモノニ付テハ一定ノ地域毎ニ之ヲ組織セシムルモノトス
尙學校ニ付テハ別ニ定ムル學徒隊ノ組織ニ依ルモ前項ノ業務ニ付テハ國民義勇隊トシテ出動スルモノトス
- (二) 國民義勇隊ニ參加セシムヘキ者ハ老幼者、病弱者、妊娠婦等ヲ除クノ外可及的廣汎ニ包含セシムルモノトス
註、一、右ノ範圍ハ國民學校初等科修了以上ノ者ニシテ男子ニ在リテハ六十五歳以下女子ニ在リテハ四十五歳以下ノモノトス但シ右ノ年齢以上ノ者ニ在リテモ志願ニ依リ參加セシム
- 二、家庭生活ノ根軸タル女子ニ付テハ組織及運用ニ付特別ノ考慮ヲ拂フモノトス
- (三) 國民義勇隊ハ一般ニ職域毎ニ組織スルモノハ職場、市區町村毎ニ組織スルモノハ地域ニ依リ夫々一定ノ基準ニ從ヒ男女別ニ之ヲ編成セシムルモノトス
尙出動業務ノ必要ニ應ジ最モ有效適切ニ活動シ得ル如ク隊員ノ年齢、體力、職種等ヲ標準トシテ特別ノ出動編成ヲモ併セ考慮セシムルモノトス
- (四) 都道府縣毎ニ國民義勇隊本部ヲ設ケ當該區域内國民義勇隊ヲ統轄セシム
- 本部長ハ地方長官トス
市區町村隊ノ隊長ハ市區町村長トス

〔國勸〕

三、運用

(一) 國民義勇隊ノ出動ハ本部長又ハ其ノ定ムル所ニ從ヒ各隊長ニ於テ其ノ必要アリト認メテ自ラ之ヲ爲ス場合ノ外出動要請ニ基キ之ヲ行フモノトス

(二) 原則トシテ國民義勇隊ノ出動要請ハ地方長官ニ對シテ之ヲ爲シ地方長官之カ出動指令ヲ發スルモノトス

(三) 國民義勇隊ハ軍部隊ノ補助ノ爲出動スル場合ハ當該陸海軍部隊長ノ指揮ヲ受ケ警防活動ノ補助ノ爲出動スル場合ハ當該官署長ノ指揮ヲ受クルモノトス

其ノ他ノ業務ノ爲出動スル場合ハ當該工事又ハ作業ノ施行者ノ要請ニ從ヒ行動スルモノトス

四、其ノ他

(一) 國民義勇隊ノ出動ニ要スル經費ハ其ノ目的ニ應ジ軍政府、公共團體又ハ其ノ出動ノ受益者ニ於テ負擔スルヲ原則トス

(二) 國民義勇隊ノ組織運用等ニ關シテハ在郷軍人會、警防團等ト互ニ組織スル所オカラシメ彼此兩全ヲ期スル如ク配意スルモノトス

(三) 農山漁村ニ在リテハ食糧増産等ニ關スル農林水産業者ノ活動ヲ徹底セシムルヲ旨トシ國民義勇隊ノ組織運用等保當リテハ之ト組織セサル様特ニ配意スルモノトス

(四) 本組織ノ指導的要員ニ付テハ官民有識者ノ挺身協力ヲ豫定ス

備考 一、本件ト表裏シテ軍隊ニ於テモ警防、建設、生産ノ輸送等ニ對シ積極的ニ應援協力スルモノトス

第六 其ノ他

二、國民義勇隊員タル農林水産業者ノ目的第一項中ノ食糧増産等ニ對スル出動ハ現行制度ニ依ルモノトス
三、本件ニ關スル運用上必要ナル細目ハ別ニ之ヲ定ム

〔國勅〕

0486

二八五

決戦教育措置要綱

(昭和二〇、三)
閣議決定

第一 方針

現下緊迫セル事態ニ即應スル爲學徒ヲシテ國民防衛ノ一翼タラシムルニ共ニ眞學生産ノ中核タラシムル爲左ノ措置ヲ講ズルモノトス

第二 措置

- 一、全學徒ヲ食糧増産、軍需生産、防空防衛、重要研究其ノ他直接決戦ニ緊要ナル業務ニ補助員ス
- 二、右目的達成ノ爲國民學校初等科ヲ除キ學校ニ於ケル授業ハ昭和二十一年四月一日ヨリ昭和二十一年三月三十一日ニ至ル期間原則トシテ之ヲ停止ス
- 國民學校初等科ニシテ特定ノ地域ニ在ルモノニ對シテハ昭和二十年三月十六日閣議決定學童疎開強化要綱ノ趣旨ニ依リ措置ス
- 三、學徒ノ動員ハ教職員及學徒ヲ打ツテ一丸トスル學徒隊ノ組織ヲ以テ之ニ當リ其ノ編成ニ付テハ所與ノ措置ヲ講ズ但シ戰時重要研究ニ從事スル者ハ研究ニ専念セシム
- 四、動員中ノ學徒ニ對シテハ農村ニ在ルカ工場事業場等ニ就業スルカニ應ジ勞作ト緊密ニ連繫シテ學徒ノ勉學修養ヲ適切ニ指導スルモノトス
- 五、進級ハ之ヲ認ムルモ進學ニ付テハ別ニ之ヲ定ム
- 六、戰爭完遂ノ爲特ニ緊要ナル專攻學科ヲ修メシムルヲ要スル學徒ニ對シテハ學校ニ於ケル授業モ亦之ヲ繼續實施スルモノトス但シ此ノ場合ニ在リテハ能ク限リ短期間ニ之ヲ完了セシムル措置ヲ講ズ

第六 其ノ他

七、本要綱實施ノ爲速ニ戰時教育令(假稱)ヲ制定スルモノトス
備考

- 1、文部省所管以外ノ學校、養成所等モ亦本要綱ニ準ジ之ヲ措置スルモノトス
- 2、第三項ハ第一項ノ動員下令アリタルモノヨリ逐次之ヲ適用ス
- 3、學校ニ於テ授業ヲ停止スルモノニ在リテハ授業料ハ之ヲ徴收セズ

學徒除費其ノ他學校經營維持ニ要スル經費ニ付テハ別途措置スルモノトシ必要ニ應ジ國庫負擔ニ依リ支辨セシムルモノトス

戰時教育令

(昭二〇、五)
勅令三三〇

- 第一條 學徒ハ盡忠以テ國運ヲ健甞ニ擔ヒ戰時ニ緊切ナル要務ニ挺身シ平素鍛練セル教育ノ成果ヲ遺憾ナク發揮スルト共ニ智能ノ鍊磨ニ力ムルヲ以テ本分トスベシ
- 第二條 教職員ハ率先垂範學徒ト共ニ戰時ニ緊切ナル要務ニ挺身シ俱學俱進以テ學徒ノ黨化啓導ノ任ヲ全ウスベシ
- 第三條 食糧増産、軍需生産、防空防衛、重要研究等戰時ニ緊切ナル要務ニ挺身セシムルト共ニ戰時ニ緊要ナル教育訓練ヲ行フ爲學校毎ニ教職員及學徒ヲ以テ學徒隊ヲ組織シ地域毎ニ學徒隊ヲ以テ其ノ聯合體ヲ組織スルモノトシ二以上ノ學徒隊ノ一部又ハ全部分同一ノ職場ニ於テ挺身スルトキハ文部大臣ノ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ職場毎ニ教職員及學徒ヲ以テ學徒隊ヲ組織シ又ハ學徒隊ヲ以テ其ノ聯合體ヲ組織スルモノトス

二八七

0487

學徒隊及其ノ聯合體ノ組織編制、教育訓練、指導監督其ノ他學徒隊及其ノ聯合體ニ關シ必要ナル事項ハ文部大臣之ヲ定ム

第四條 戰局ノ推移ニ即應スル學校教育ノ運営ノ爲テ必要アルトキハ文部大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ教科目及授業時數ニ付特別ヲ設ケ其ノ他學校教育ノ實施ニ關シ特別ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第五條 戰時ニ際シ特ニ必要アルトキハ學徒ニシテ徵集、召集等ノ事由ニ因リ軍人(陸海軍ノ學生生徒ヲ含ム)ト爲リ、戰時ニ緊切ナル要務ニ挺身シテ死亡シ若ハ傷痍ヲ受ケ又ハ戰時ニ緊要ナル專攻學科ヲ修ムルモノハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ正規ノ期間在學セズ又ハ正規ノ試験ヲ受ケザル場合ト雖モ之ヲ卒業(之ニ準ズルモノヲ含ム)セシムルコトヲ得

第六條 本令中文部大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州及滿洲國ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

戰時教育令施行規則

(昭二〇、五)
文令九

第一條 戰時教育令(以下令ト稱ス)第三條ノ規定ニ依ル學徒隊ノ組織編制ハ左ニ依ルモノトス

- 一 學校毎ニ組織スル學徒隊ハ左ニ依リ之ヲ組織ス
- (イ) 學徒隊ハ原則トシテ學部、學科、學年、學級等ヲ單位トシテ之ヲ組織ス但シ必要アルトキハ特別ノ組織ヲ爲スコトヲ得

- (ロ) 學徒隊ニ學徒隊長ヲ置キ學校長ヲ以テ之ニ充ツ
- (ハ) 學徒隊ハ必要ニ應ジ大隊、中隊、小隊、班等ニ之ヲ分チ其ノ長ハ教職員及學徒ヲ中ヨリ學徒隊長之ヲ命ズ
- ニ 地域毎ニ組織スル學徒隊ノ聯合體ハ左ニ依リ之ヲ組織ス
- (イ) 全國學徒隊ハ地方學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ文部大臣ヲ以テ之ニ充ツ

- (ロ) 地方學徒隊ハ地方行政協議會區域内ノ大學高等專門學校學徒隊及都道府縣學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ當該地方行政協議會會長タル地方長官ヲ以テ之ニ充ツ
- (ハ) 大學高等專門學校學徒隊ハ當該地方行政協議會區域内ノ大學高等專門學校(教員養成諸學校ヲ含ム以下同シ)ノ學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ當該區域内ノ大學高等專門學校ノ學校長又ハ文部省高等官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ命ズ但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ地方行政協議會ノ區域内ニ於テ二以上ノ大學高等專門學校學徒隊ヲ組織スルコトヲ得

- (イ) 文部大臣ハ必要ニ應ジ大學高等專門學校學徒隊ヲ都道府縣學徒隊ニ臨時編入スルコトヲ得
- (ロ) 都道府縣學徒隊ハ都道府縣中等學校學徒隊、都道府縣青年學校學徒隊及都道府縣國民學校學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ當該都道府縣ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ

- (ハ) 都道府縣中等學校學徒隊ハ當該都道府縣内ノ中等學校ノ學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ當該都道府縣内政部長(東京都ニ在リテハ教育局長)又ハ中等學校長ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

〔國勅〕

都道府縣青年學校學徒隊及都道府縣國民學校學徒隊ハ夫々當該都道府縣内ノ郡市青年學校學徒隊及郡市國民學校學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ夫々當該都道府縣内政部長（東京都ニ在リテハ教育局長）又ハ青年學校長若ハ國民學校長ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

(二) 郡市青年學校學徒隊及郡市國民學校學徒隊ハ夫々當該郡市（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ區、北海道及樺太ニ在リテハ支廳）内ノ青年學校學徒隊及國民學校學徒隊ヲ以テ之ヲ組織シ其ノ隊長ハ夫々當該郡市内ノ青年學校長若ハ國民學校長又ハ地方事務所長（東京都ノ區ノ存スル區域ニ在リテハ區長、北海道及樺太ニ在リテハ支廳長）ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ズ

(三) 各市町村長ハ夫々關係學徒ノ名譽隊長又ハ顧問トシテ地方長官之ヲ委囑スルコトヲ得

(四) 盲聾學校學徒隊ハ都道府縣學徒隊ニ之ヲ編入ス

(五) 專門學校、中等學校、國民學校等ニ準ズル各種學校ノ學徒隊ハ夫々其ノ準ズル學校ノ例ニ依ル

三 職場毎ニ組織スル學徒隊（以下職場學徒隊ト稱ス）ハ左ニ依リ之ヲ組織ス

(1) 二以上ノ學徒隊ノ一部ガ同一ノ職場（挺身シタルトキハ其ノ職場ヲ單位トシテ學徒隊ヲ組織ス）

(2) 二以上ノ學徒隊ノ全部ガ同一ノ職場ニ挺身シタルトキハ其ノ職場ヲ單位トシテ學徒隊ノ聯合體ヲ組織ス

(3) 二以上ノ學徒隊ノ一部及全部ガ同一ノ職場ニ挺身シタルトキハ實第六 其ノ他

〔國勸〕

情ニ應ジ其ノ職場ヲ單位トシテ學徒隊又ハ學徒隊ノ聯合體ヲ組織ス
(一) 職場學徒隊ニ隊長及副隊長ヲ置キ隊長ハ當該職場ニ挺身中ノ學徒ノ屬スル學校ノ學校長ノ中ヨリ、副隊長ハ當該職場ニ挺身セル教職員ノ中ヨリ、大學高等專門學校ノ學徒ヲ合ム場合ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ場合ニ在リテハ當該職場ノ所在地ノ地方長官之ヲ命ズ但シ大學高等專門學校ノ學徒數五十人未滿ナルトキハ當該職場ノ所在地ノ地方長官之ヲ行フモノトス

(二) 職場學徒隊ヲ組織スル各學校ノ學校長ニシテ隊長又ハ副隊長ニ非ザルモノハ學徒隊參與トシ學徒隊長ト密接ナル聯繫ノ下ニ當該學徒隊ノ指導監督ニ參與スルモノトス

(三) 職場學徒隊ニ在リテハ職場トノ密接ナル聯繫ヲ保チ學徒ノ指導ニ遺憾ナカラシムル爲メ學徒隊長ハ當該職場ノ幹部職員中適當ナルモノヲ當該學徒隊ニ囑託スルコトヲ得

(四) 職場學徒隊ハ都道府縣學徒隊ニ之ヲ編入ス

(五) 一職場ニ挺身スル學徒隊ガ一學校ノ學徒隊ノ全部又ハ一部ノミナル場合ニ於テハ(一)及(二)ノ適用ニ付テハ其ノ學徒隊ノ全部又ハ一部ヲ以テ當該職場學徒隊ト看做ス

第二條 左ノ各號ノ場合ニハ令第三條ノ規定ニ依リ職場學徒隊ヲ組織セザルコトヲ得

一 挺身スル學徒五十人未滿ナル場合

二 挺身スル期間三十日未滿ナル場合

三 其ノ他文部大臣又ハ地方長官ニ於テ職場學徒隊ヲ組織スル必要ナシト認メタル場合

0489

第六 其ノ他

第三條 令第三條ノ規定ニ依ル學徒隊ノ教育訓練ハ左ノ事項ニ重點ヲ置クモノトシ其ノ指導監督ニ關シテハ大學高等專門學校ノ學徒隊(職場學徒隊ニ屬スル場合ヲ含ム)ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ノ學徒隊(職場學徒隊ニ屬スル場合ヲ含ム)ニ在リテハ當該學校ノ所在地ノ地方長官之ヲ行フモノトス

- 一 軍事教育ニ關スル事項
- 二 防空防衛ニ關スル事項
- 三 生産技術ニ關スル事項

四 其ノ他戰時ニ緊要ナル教育訓練ニ關スル事項

第四條 學徒隊ノ挺身及其ノ停止ニ關シテハ大學高等專門學校ノ學徒隊(職場學徒隊ニ屬スル場合ヲ含ム)ニ在リテハ文部大臣、其ノ他ノ學校ノ學徒隊(職場學徒隊ニ屬スル場合ヲ含ム)ニ在リテハ當該學校ノ所在地ノ地方長官之ヲ命ズルモノトス

緊急ノ必要アリテ前項ノ命令ニ依ル違ナキトキハ上級ノ學徒隊長ハ直屬ノ學徒隊長ニ其ノ學徒隊ノ挺身及其ノ停止ヲ命ジ又ハ各學徒隊長ハ其ノ學徒隊ノ挺身及其ノ停止ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 青年學校學徒隊及國民學校(初等科)學徒隊ヲ除ク學徒隊ガ學徒勤務令第四條ノ規定ニ依ル國家總動員業務ニ挺身スル場合ニ於テハ學徒勤務令ノ定ムル所ニ依ル

第六條 學徒隊ハ其ノ挺身スル要務ノ遂行ニ關シテハ當該職場ノ責任者ノ指示ヲ受ケルモノトス

第七條 工場事業場等ニ於ケル私立青年學校學徒隊ノ教育訓練ニ關シテハ當該職場學徒隊長ノ指揮ヲ受ケルモノトス

第八條 隊長ハ隊員ヲ指揮命令シ上級ノ隊長ハ直屬ノ隊長ヲ指揮命令ス前項ノ規定ニ拘ラズ文部大臣又ハ地方長官(職場學徒隊ニ在リテハ當該職場ノ所在地ノ地方長官)ハ必要ニ應ジ各學徒隊長ヲ直接指揮命令スルコトヲ得

第九條 文部大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ令第四條ノ規定ニ依リ國民學校、盲學校、聾啞學校、青年學校、中等學校、師範學校、青年師範學校、高等師範學校、女子高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所、專門學校、高等學校又ハ大學ニ關スル文部大臣ノ定メタル規程又ハ認可シタル學則ニ拘ラズ左ノ各號ノ措置ヲ爲スコトヲルベシ

- 一 教科課程、學科課程又ハ教授及訓練課程並ニ修業課程ニ付其ノ一部ヲ缺キ若ハ重點的ナル取扱ヲ爲シ又ハ授業日數ヲ短縮スルコト
- 二 一定期間内ニ修業年限又ハ在學年限内ノ所要課程ヲ集約シテ課スルコト
- 三 一定期間ヲ限リ學校ニ於ケル日規ノ授業ノ停止ヲ命ズルコト

第十條 授業料ヲ徵收セル學校正規ノ授業ヲ停止シタルトキハ授業料ニ代ヘ授業料相當額ヲ超エザル限度ニ於テ教育訓練ニ要スル經費ヲ徵收スルコトヲ得

公立又ハ私立ノ學校ニ於テ前項ノ經費ノ増額ヲ爲ス場合ニハ管理者又ハ設立者ハ文部大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケベシ

第十一條 學校長ハ最高學年ニ在學スル學徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付令第五條ノ規定ニ依ル卒業(之ニ準ズルモノヲ含ム)ノ認定ヲ爲スコトヲ得文部大臣ノ指定スル專攻學科ヲ修ムル者ニシテ文部大臣ノ定ムル期間内ニ當該學科ニ必要ナル課程ヲ修メタルモノニ付亦同シ

〔國勳〕

一 徵集、召集等ノ事由ニ因リ軍人（陸海軍ノ學生生徒ヲ含ム）ト爲リ
タル者

二 戦時ニ緊要ナル要務ニ挺身シテ殉職シ者ハ傷損ヲ受ケ修學困難ト爲
リタル者

前項第一號及第二號ノ者ニシテ特別ノ事由アルトキハ最高學年ニ在學セ
ザル者ト雖モ學校長ハ文部大臣ノ承認ヲ受ケ卒業（之ニ準ズルモノヲ含
ム）ニ付特別ノ認定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ動員中ノ學生ハ本令ニ依リ挺身セルモノト看做ス
學徒勤勞令ニ規定スル學校報國隊ハ當分ノ内令第三條ノ規定ニ依ル學校ニ
於ケル學徒隊ノ一部又ハ全部ト看做ス

第六 其ノ他

二九一

國勳

0491